

◆熊本市は、市民の水道水源の100%を地下水で賅っている。

しかし、環境の変化とともに、年々地下水位は低下、水質も悪化し、既定の地下水保全条例を改正し、対策に取り組んでいる。

条例では、市・市民や事業者・地下水採取者それぞれの責務を定め、市民との協働のもと、水質保全、かん養、節水など地下水保全対策に取り組んでいる。

◆おおき循環センターは、町の「循環のまちづくり」の拠点として、平成18年に開設した。ごみとしていた有機物をメタン発酵処理し、発生ガスを燃料に電気



循環のまちづくりの拠点、
おおき循環センター

をつくり施設で利用、残った消化液を有機肥料として農地に還元する取り組みを行っている。

徹底した分別への住民の協力もあり、ごみ処理量は平成17年度に比べ、22年度は約5割の削減を達成した。

◆鹿児島市では、市民活動団体が自主的に行う公益的な事業に対し、助成するとともに、市が設定したテーマについて、市民活動団体から企画提案を募集し、市民活動団体と市が共同で取り組む企画提案型まちづくりモデル事業を実施している。

団体の意識が低いなど、課題もあるとのことであった。

【視察地・視察項目】

- ◎熊本市（熊本県）
「日本一の地下水都市くまもと」の推進
- ◎大木町（福岡県）
おおき循環センター「くるるん」
- ◎鹿児島市（鹿児島県）
市民とつくる協働のまち事業
企画提案型まちづくりモデル事業

市民環境委員会

● 4月17～19日 ●

◆函館市では「函館市発注工事に係る元請・下請適正化指導要綱」を定め、下請け業者や現場で働く労働者に不利がないよう元請業者に要請している。また、国土交通省、農林水産省の二省協定に基づく設計労務単価を提示し、適正な賃金の支払いに配慮することや建設労働者の福祉の増進を図るため、元請事業主へ建設業退職金共済制度の加入促進に努めることを求めている。これらの行政指導に係る取り扱いが函館方式と呼ばれている。

◆仙台市では発災と同時に災害対策本部を設置し、10月28日までに62回開催した。仙台市の対応の特徴として、電話や窓口におけるところのケアサービスなどの市民相談サービスの設置が挙げられる。ホームページでの情報提供はもちろんであるが津波により閲覧できない市民が多いため、新聞折り込みによる情報提供を実施していた。また、ボランティアセンターを開設し



被災した小学校（仙台市）

復興支援「E G A O せんだい」の運用を開始している。

今回の避難所運営の経験から防災マニュアルは市職員用ではなく、職員と市民との共通の避難所運営マニュアルが必要と考え現在作成中である。

【視察地・視察項目】

- ◎函館市（北海道）
公契約の取り組み
- ◎盛岡市（岩手県）
市業務の民間委託
※交通機関事故不通に伴い中止
- ◎仙台市（宮城県）
自主防災と避難所運営

総務委員会

● 4月25～27日 ●

委員会視察

建設経済委員会

● 5月8～10日 ●

【視察地・視察項目】

- ◎苫小牧市（北海道）
まちなか再生総合プロジェクト（CAP）事業
- ◎旭川市（北海道）
北彩都あさひかわ整備事業
- ◎富良野市（北海道）
中心市街地活性化基本計画



旭川駅周辺の開発整備事業

で終了見込みである。

また、新しい駅前広場も25年度には整備される予定であり、さらに忠別川周辺を魅力的に整備する北彩都ガーデンも進められている。

◆富良野市では、駅周辺の整備には、市の単独施工ではなく、民間・行政のコラボレーションが必要であると認識。商工会議所、まちづくり会社（第3セクター）が中心となりまちづくりを進める。地元物産販売施設であるフラノ・マルシェは観光客でにぎわっている。現在、高齢化社会を意識したネーブル・タウンの整備を検討している。

◆苫小牧市では、中心市街地の活性化に当たり、まちづくりの観点から総合的に考えるとともに、計画した事業は実施を前提にスピード感をもって柔軟に取り組むこととし、コンパクトなまちづくりを推進。地域ブランド戦略、まちなか交流館の建設、ご当地グルメの推進のほか、25年にはライブラリー・カフェの設置を予定している。

◆旭川市では、旭川駅周辺の開発整備事業を実施。鉄道の高架化、河川改修事業は23年度に終了。関連街路事業(橋の整備)は25年度、土地区画整理事業は26年度

教育民生委員会

● 4月24～26日 ●

◆高松市立図書館は全部で5館。市民1人当たりの年間貸し出し冊数は7.2冊、登録率は57.8%である。コンビニでの貸し出し業務を24年2月から市内の中心街、主要駅に近い1店舗に限定してスタートした。事前にパソコンや携帯電話で予約をし、翌日の午後5時以降は24時間いつでもコンビニで受け取ることができる。1日当たりの予約は平均75件で図書館全体の1日予約件数790件の9.5%と高い利用率を占めている。

◆四国中央市の校庭・園庭芝生化事業は「子育て環境、四国一」への取り組みの一環として21年



四国中央市立三島東幼稚園の園庭の芝生

【視察地・視察項目】

- ◎高松市（香川県）
高松市立中央図書館
- ◎四国中央市（愛媛県）
校庭・園庭芝生化事業
- ◎松山市（愛媛県）
松山市総合福祉センター

度から開始。走るのが速くなった、風邪をひかなくなった等の効果が認められている。協働事業の一環として位置づけられ、芝生の管理経費は市からの補助金、労力はサポーターにより賄っている。

◆松山市総合福祉センターは市制施行100周年事業の一環として平成3年4月に開設。高齢社会の到来と福祉ニーズの複雑化・多様化・増大化に対応でき、高齢者・障害者・ボランティア活動など各種福祉活動の拠点となる総合的機能を有する施設。総事業費は33億8,320万円。